

活動要旨(案)

一般財団法人ニューメディア開発協会

この調査研究事業を推進するに当たっては、当協会賛助会員の皆様のご協力を賜りつつ、法人番号に係る諸々の事項についての論議を通して認識を深め、本テーマに関連した次世代の事業創出に繋げられるよう展開して参りたいと考えております。

1. 背景

医療・健康分野においては、先進的ICTの利活用に向けて、ビックデータ、AI等の新技術を適用することで、膨大な検診・臨床データと個人の体質を踏まえた創薬・医療機器開発が促進され、効果的な予防・健康づくりや介護サービス、さらには高品質なテラーメイド医療がもたらされると期待されている。

一方、平成28年1月には新たな公的個人認証サービス（JPKI）を搭載したマイナンバーカードの交付が開始され、マイナンバーカードを用いた医療保険のオンライン資格確認が平成30年度から段階的に運用開始されることとされている。医療・健康分野においてもHPKIとこれをリンクさせることで、電子署名に基づく医療側と患者本人それぞれの認証とエビデンスを明確にできるため、信頼性とセキュリティの向上が図れ、ICT化への親和性が劇的に向上すると見込まれる。

このための重要な前提となるのが、セキュリティが確保された安全な医療分野の専用NWの導入と、さらにこの上に構築されるべきEHR/PHRという生涯にわたる個人健康医療管理システムを統合する情報連携基盤である。医療分野NWへのアクセスキーとして活躍するのがHPKIであるが、これを搭載するICカードをJPKIと連動させるための新たな取組みが進みつつある。これによりHPKIカードの普及が進めば、NWアクセス時に医療従事者の職務上の資格認証が容易となり、病院、薬局、および健保組合間での医療情報連携基盤や健康情報活用基盤を介した情報の交換や、さらに将来的には属性リンク情報を元にしたAI適用による疾病予防に向けたビックデータ活用まで、壮大な展望ができるようになってきた。

こういったICTによる統合された医療・健康情報基盤の構築・活用を踏まえ、個人ベースの健康・医療・介護情報を生涯にわたり管理、活用することにより、より健康で充実した生活の実現や医療レベルの高度化に貢献し、国民医療介護費支出の適正化と我が国の経済社会の生産性向上がもたらされることが期待されている。

また、かかるシステム導入に伴い、新たなサービス市場が創出され、今後急速に成長していくことが見込まれる。

そこで当協会では、医療・介護、健康にかかわる有識者、関係者の参加による『生涯健康管理に関する研究会[仮称]』を設置し、東工大社会情報流通基盤研究センターが推進するPHDRS構想（末尾参考資料を参照）をはじめ、EHR/PHRに関連したシステムに関する周囲状況（社会的・技術的背景）、必要性、実現に向けての課題等についての情報、意見を交換し、必要に応じて、その結果を整理してまとめるとともに、今後の実証試験等に必要なアクションを明らかにする。

2. 検討方法と項目

協会内に研究会（生涯健康管理に関する研究会[仮称]）を設け、以下のテーマを主軸に、現状を把握するとともに、健康管理システムを医療分野ネットワークと連携させるための課題について調査・検討を行う。

- ・ 我国のEHR/PHR（例：社会保障、健康経営、個人健康管理システム）の現状と課題
- ・ 関連基盤の構築状況の調査（医療・健康データ利活用基盤高度化事業[総務省]など）
- ・ 個人生涯健康医療管理システムのあるべき姿
- ・ 個人生涯健康医療管理システム実現に向けた課題検討
- ・ 個人の生涯健康医療管理システム導入に向けたブレークスルーと具体的アプローチ

3. 実施方法

- ・ 研究会を9月12日に設立し上記のテーマ群について論議
- ・ 毎月1回程度研究会を開催し、委員およびオブザーバ等からのプレゼンと意見交換
- ・ 詳細検討を要する項目に関しては作業部会を構成し、別途取り纏めて報告を行うことを検討
- ・ 平成29年度3月末迄に研究会の報告書を執筆分担し取りまとめて提言

以上

PHDRSとは

考え方

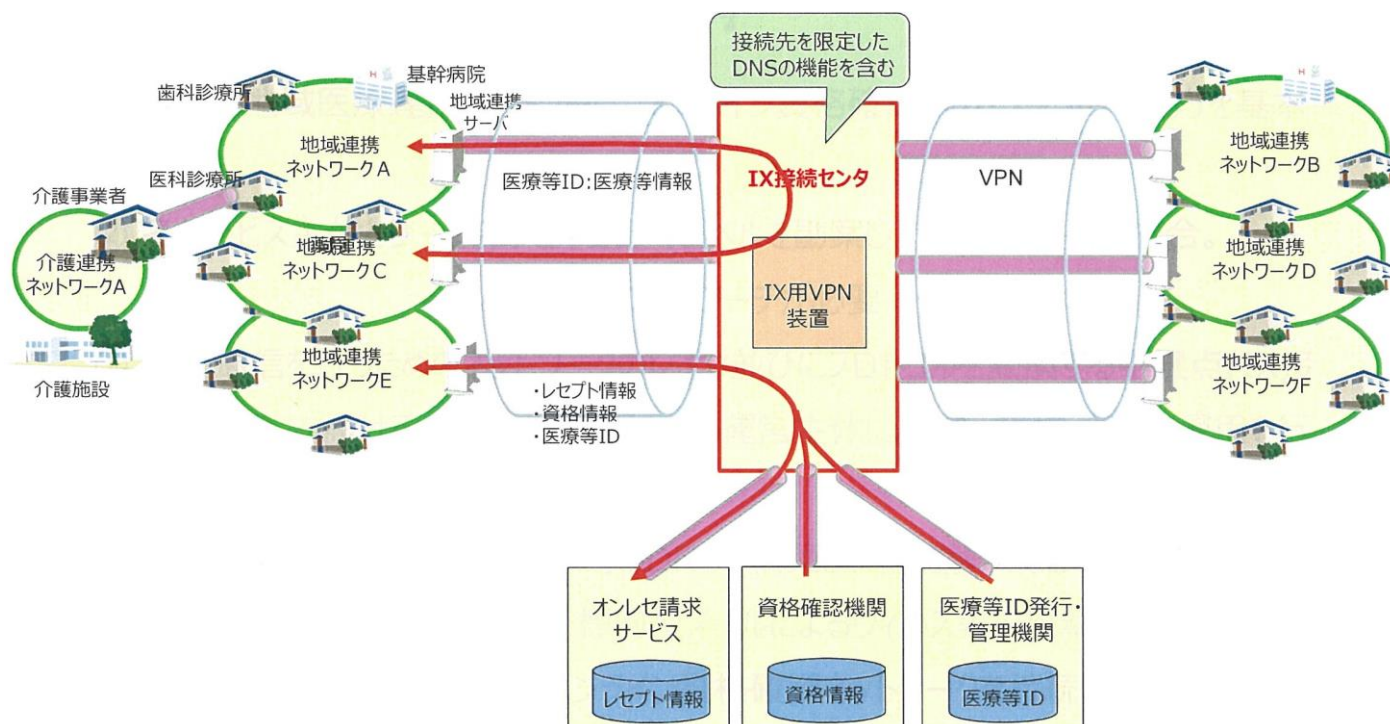
- ・ 生まれてから死ぬまでの健康・医療情報等は保有する機関を跨いで個人別に時系列に管理
- ・ 何時何処で診療したかを医療情報として記録（現状の保険診療では、5年間の保存義務でこれを超える情報について要検討）
- ・ 乳幼児、学童等の検診結果等までも有効に紐付け

効果

- ・ 本人同意により、匿名化してビックデータとして病理分析することが可能
- ・ 生活習慣病の防止など健康予測の新たなサービスに展開できると期待
- ・ 患者別（ガン、循環器病等）データベースは、PHDRSから再構成することが可能

特徴

- ・ 安全管理のため、医療情報は従来どおりの分散管理が可能であり、また望ましい
 - ・ 基本的には、リンク情報（医療情報の存在場所とアクセス権等）の集まりがPHDRSとなる
 - ・ 保険資格証確認は、JPKIと紐付いたリンク情報（何時誰が何処の医療サービスを受けたか）により、電子署名に基づくエビデンスとして生成可能
- ⇒ 他人の医療情報との混同を避けるとともに、証跡による信頼性を確保



医療等分野NWイメージ(PHR連携前)

専用NWにさらにPHRが乗り入れ、さらにNW内にリンク情報を保有することで、健康・医療分野を統合化した個人生涯健康医療管理システムの基盤が構成される。

〔出典：東京工業大学・HEASNET 資料より〕